

令和6年度 第4回 静岡県立伊豆の国特別支援学校 学校運営協議会

1 期 日 令和7年2月19日(水)

2 場 所 静岡県立伊豆の国特別支援学校 会議室

3 日 程

9時30分	開会
	校長あいさつ
9時40分	校内参観
10時10分	令和6年度学校経営の報告・評価について 令和7年度の学校経営方針(案)について 県研究指定の説明 感想・質疑応答 閉会
10時50分～	休憩

4 参加者

学校運営協議会委員

氏 名	所 属 等
佐藤 政範	四日町区長
山本 能久	寺家区長
大塚 広典	東レ株式会社三島工場 労務課 課長
花村 康太	株式会社トーホー 代表取締役社長
大西 邦明	旭化成ファーマ株式会社
村上 昇男	伊豆市観光協会 事務局長
川島 庸	伊豆の国特別支援学校 PTA会長

学校教職員

職 名	氏 名	所 属 等
校 長	松本 仁美	
副校長	勝又 将也	
教 頭	井上 みづほ	
事務長	鈴木 健夫	
部主事	渡邊 康子	小学部
部主事	神田 光紀	中学部
部主事	岩谷 俊宏	高等部
教 諭	廣 和子	教務課長 小学部

5 資 料

資料①	令和6年度学校経営計画書
資料②	令和6年度学校経営報告書(自己評価)
資料③	令和6年度学校自己評価(保護者)結果
資料④	令和6年度学校関係者評価集約(学校運営協議会委員から)
資料⑤	令和7年度学校経営計画書(案)

<校長挨拶>

今、R7年度に向けて学校の予算がついてきたところである。世の中が大きく変わってきている。(AI導入、物価高騰)教材購入や給食費の難しさもある。

一番問題になっているのは卒業後である。特別支援の子どもたちにとって今はお金が見えないから、金銭管理が課題になる。学校で教えることもスキルからお金の価値に変化している。

学校が何でも請け負いすぎていることも課題である。保護者のサービスを受けることが当たり前という意識につながってしまっている。

今日は今年度のまとめを行うので、またいろいろなアイデアをいただきたい。

机上の紙コースター下田分校中学部の製作作品が外国人観光客に人気。

<校内参観>

学部の一組を見学いただいた。

<令和6年度学校経営の報告・評価について>

副校長 事前配布資料(4~6ページ、9~11ページ)に基づき説明。各項目の達成状況をA~Cで評価(A:達成、B:一部達成、C:未達成)。

部主事 地域とのかかわりは近隣の農家から野菜の作り方を学んだり収穫体験、温泉饅頭づくりなどを行った。

コアリーダーの取り組みが児童の達成感、達成感につながっている。

部主事 昼休みの時間を延ばす、授業の中で生徒同士の関わり、行事への参加で仲間意識が高まり、成長した。

作業学習や竹灯籠づくり等の人材活用から「地域貢献」「地域の人ともっと関わりたい」という気持ちが生徒の中に芽生えてきている。

市内だけでなく、学区内につながりを広げたい。

部主事 「命を守る」防災学習 地域SWで地域に貢献の気持ちが育ってきた。

なぎの葉祭りの地域の方の来校、地域での作業製品の販売増えた。

絵手紙ポストの作成(木工課)地域に知っていただく機会増えた。

委員 文化祭に参加して感想。先生方のお大変さを感じた。生徒の楽し気な感じにほっこりした。

委員 作業製品販売は提案してからすぐに実行に移していただいて繋がった。実際に物を取って見てもらえる場所にそのものを販売することを繰り返すことによって知名度も上がる。まずは表に出ることがすごく大切である。

委員 防災について中条区、寺家区それぞれ避難する場所が今まで曖昧だったのが学校の訓練に参加して明確化されてきた。

副校長 山本様に継いでいただいて中条区と顔が見えるようになってよかった。

委員 四日町区でも組によってはこの学校の方が近いところがある。防災時の動きについて市と確認したい。

事務長 地域の方が安心できる場所として本校がそういう避難所になればよい。

委員 避難所の役割と生徒の学習の場の住み分け案できている。

部主事 総合で防災も柱として学習している。系統的に積み上げて高等部へつなげる。

高等部 自助を前提に、共助のできる生徒を育てることをねらっている。

PTA 会長 校内を参観して、昨年に比べて活動が増えている印象。掲示を見ても教室ごと個別で学習していたが、今年度は繋がっている。積み上げや繋がりを感
じる。つながりの面で工夫していることはあるか？

部主事 ペア学年の活動に力を入れて、学年を超えた活動にも重きをおいている。

副校長 学部とのつながり、地域への発信に力を入れている。社会に出て行く子どもたちなので、それを見越した指導が必要である。
評価については C・D をつけている教職員に話を聞くと自分事での反省が多い。組織としての評価ができるように、自律した教職員集団を目指す。

<保護者学校評価の結果と考察について>

教務課長 保護者評価アンケートの結果、3項目は目標達成も、1項目（生命の尊さ、人とのつながり）は伝わりにくかった。今後、教員と保護者の連携強化、情報伝達改善が課題である。

委員 紙からメールへの移行について、初めは回答が少なくても、やっていくと回収率は上がる。リマインドをどう掛けるか。保護者の生活のリズムと学校のリズムの違いがある中、メールなら自分のタイミングで回答できる。絶対に開かないといけない標題にする、文章は短く、「いつまでに返信」を標題に入れる等の工夫をする。

副校長 「わくわくできる標題」、「返信が来る仕掛け」アドバイスを生かしたい。

<R7年度 学校経営方針(案)について>

校長 昨年度大きく変えたので、今年度は大きく変えない。
小学部、中学部、高等部それぞれの経営計画と、各部署の計画があることを説明。各種目標（生活、人権など）と重点目標について説明。
センター的機能の強化、小学校、中学校、高校との連携支援状況について説明。
教職員の業務遂行と働き方について、やりすぎによる自律阻害の見直しが必要であることと、コンプライアンス意識の向上、教職員の自己管理能力向上が課題である。
地域の方に防災だけでなく、防犯についても御協力をいただきたい。

<県研究指定の説明>

校長 県の研究指定を受け、伊豆の国市教委のバックアップを得て推進していく計画である。韭山地区独自の協議会との連携を強化。小中学校との交流、教員同士の学び合いを推進。
食育など、地域との連携が進んでいる事例を紹介、市長との連携も強化し、保護者の声を反映する意向であり、学校運営協議会の活用、客観的評価の導入を

検討している。最終的には高校との連携も視野に入れたい。
補助金は少ないが、有効活用を目指す。

<閉会挨拶>

校 長 本日、いろいろな御意見をいただいて良かった。今後も学校運営協議会、地域住民、保護者等と連携し、学校運営の改善を図る。校内研修を継続的に実施し、教職員の資質向上を目指す。
様々な意見を聞きながら、学校づくり、地域づくりを進めていくことを確認していきたい。